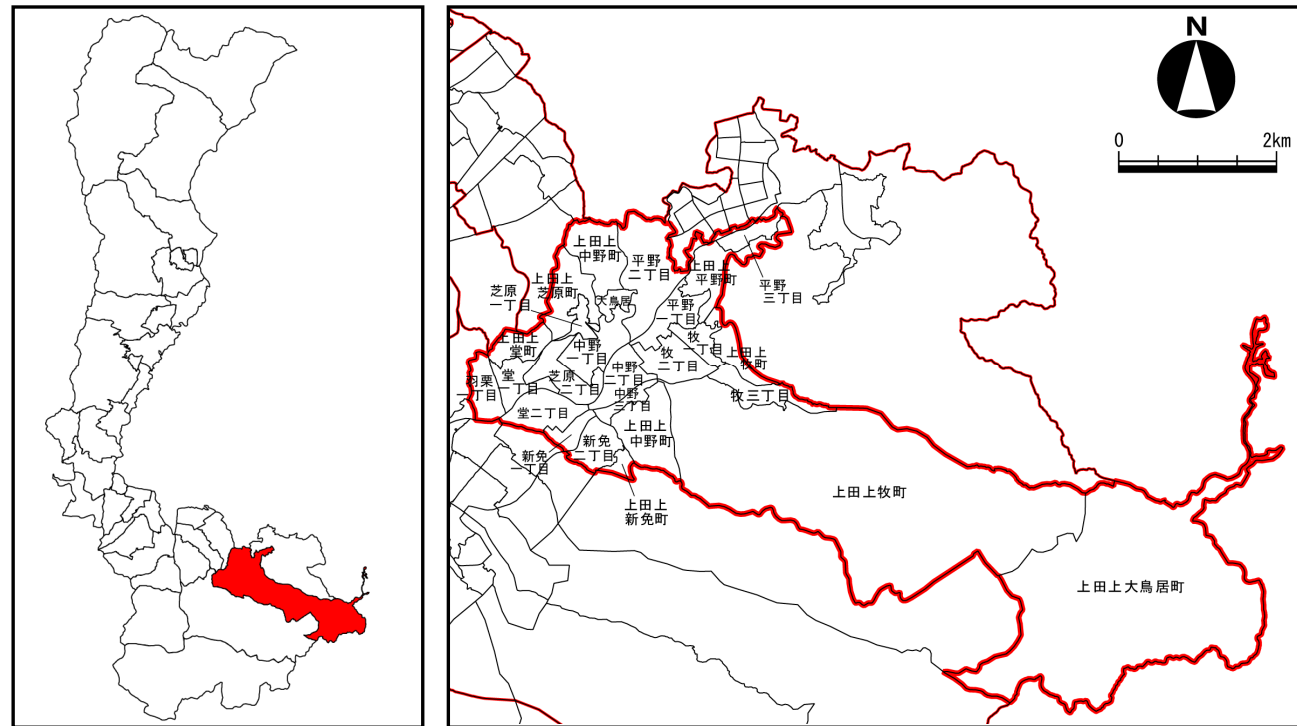


■ 学区の概況



<町丁名>

羽栗一丁目、牧一丁目、牧二丁目、牧三丁目、平野一丁目、平野二丁目、平野三丁目、中野一丁目、中野二丁目、中野三丁目、芝原一丁目、芝原二丁目、堂一丁目、堂二丁目、新免一丁目、新免二丁目、大鳥居、上田上大鳥居町、上田上牧町、上田上平野町、上田上中野町、上田上芝原町、上田上堂町、上田上新免町

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

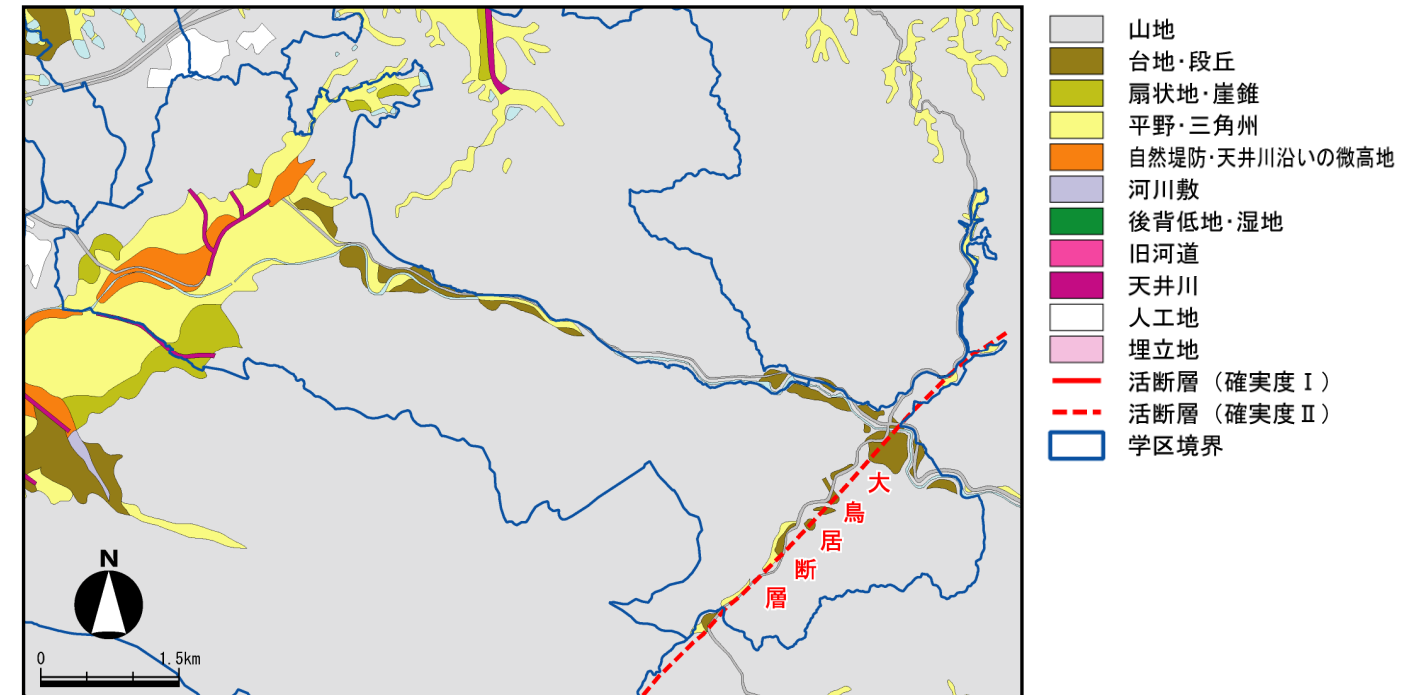
<学区の特徴>

背後を田上山系の山々に囲まれ、四季折々の姿を見せる。特に上田上大鳥居町から上田上牧町に至る溪谷から平野部を常に清水を湛えた大戸川が流れ、自然環境に恵まれた町である。この大戸川の豊かな水を資源とした「米どころ」である。

学区内には縄文時代からの遺跡もあり、万葉集にも地名の記述がみられるなど、古い歴史を持っている。

平成 20 年 2 月に新名神高速道路が開通し、学区の北縁をかすめて信楽方面に至っている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 上田上学区の地形の大部分は山地である。地域の北西部には、大戸川に沿った比較的広い低地が広がっており、山地との境界には低位段丘と扇状地が分布している。
- 田上山から流れ出る河川は水と共に多量の土砂を運搬し河床に堆積するため、低地部では天井川となっている。上田上学区と田上学区との間を流れる宮川は、川の下にトンネルを掘って道路が通っている。

<地質の特徴>

- 山地部は田上花崗岩からなる。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。田上山は古代の都造営のための森林伐採の影響ではげ山化し、風化した花崗岩が表面に現れ崩壊が数多く発生することで知られている。
- 北西部の丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- この地域の南東部には、大鳥居断層が通過している。大鳥居断層は、湖南市三雲から大津市の太神山東方までのびる、長さ約 12.5km の活断層である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
羽栗一丁目	64.0	97.3	40.7	50.0
上田上大鳥居町	-	-	-	-
上田上牧町	-	-	-	-
上田上平野町	-	-	-	-
上田上中野町	-	100.0	83.3	100.0
上田上芝原町	-	-	-	-
上田上堂町	-	-	-	-
上田上新免町	-	-	-	-
牧一丁目	46.6	62.1	84.0	66.0
牧二丁目	51.4	98.7	63.6	67.9
牧三丁目	33.5	99.6	11.5	100.0
平野一丁目	55.4	80.2	84.6	72.7
平野二丁目	40.0	99.3	55.2	62.5
平野三丁目	-	-	-	-
中野一丁目	51.7	87.5	76.7	70.4
中野二丁目	73.5	97.4	34.0	41.2
中野三丁目	49.0	89.6	64.8	42.9
芝原一丁目	40.0	68.9	83.3	74.7
芝原二丁目	-	-	-	-
堂一丁目	38.9	82.1	74.3	68.7
堂二丁目	49.7	97.8	60.0	69.2
新免一丁目	48.6	96.3	67.7	28.6
新免二丁目	51.9	87.4	76.5	58.7
大鳥居	27.0	65.7	68.7	0.0
学区平均	47.1	98.5	73.1	64.0
出典	1, 2	1, 2	2	2

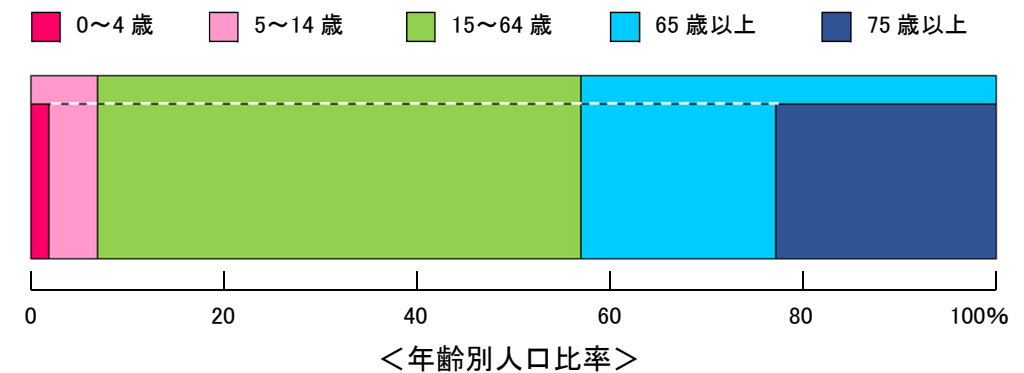
(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
 (注1) 市街化区域を対象とした。
 (注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
 出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況
 2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は47.1戸/haで市平均(全学区の平均)の59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は98.5%で市平均の93.9%を上回り、市内で2番目に高い。
- 木造率は、平野一丁目84.6%で最も高く、牧三丁目11.5%で最も低い。学区平均は73.1%で市平均72.7%と同程度である。
- 旧耐震木造建物割合は、上田上中野町、牧三丁目100.0%で最も高く、大鳥居0.0%で最も低い。学区平均は64.0%で市平均40.3%より高い。

■ 人口の状況

項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	1,902	人		-	1
年齢別 (0~4歳)	36	人	学区人口に対する割合	1.9	1
年齢別 (5~14歳)	95	人	学区人口に対する割合	5.0	1
年齢別 (15~64歳)	951	人	学区人口に対する割合	50.0	1
年齢別 (65歳以上)	820	人	学区人口に対する割合	43.1	1
年齢別 (75歳以上)	435	人	学区人口に対する割合	22.9	1
世帯数	819	世帯		-	2
1世帯当たり人口	2.3	人/世帯		-	2
要介護認定者	176	人	学区人口に対する割合	9.3	3
身体障害者 (要配慮者)	33	人	学区人口に対する割合	1.7	4
知的障害者 (要配慮者)	2	人	学区人口に対する割合	0.1	4
外国人居住者	15	人	学区人口に対する割合	0.8	5

(注) 1世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
 出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31現在)
 3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30現在)、4: 大津市データ (R4.3.31現在)
 5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 人口は中～西部の大戸川・萱尾川周辺に点在している。
- 学区人口は、市内で2番目に少ない。
- 高齢者(65歳以上)は820人、乳幼児(0~4歳)は36人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ43.1%、1.9%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で3番目に少ない。
- 乳幼児の学区人口は、市内で3番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均(27.2%)より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均(3.9%)より低い。
- 要介護認定者は176人(9.3%)、身体障害者(要配慮者)は33人(1.7%)、知的障害者(要配慮者)は2人(0.1%)である。
- 外国人居住者は15人(0.8%)である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	25 箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	40 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	53 箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	71 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	4 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） ^(注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	84,367 m ²	6
(0.5m~1.0m)	109,652 m ²	6
(1.0m~2.0m)	306,397 m ²	6
(2.0m~)	1,763,783 m ²	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	23 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、大戸川浸水想定区域は、概ね100年に1回程度の大雨（黒津地点上流域の9時間雨量157mm）の場合を想定しているため、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 上田上学区の東南部はほとんど山地で、災害危険箇所に指定されている地域は少ないが、東南端に大鳥居断層が北東—南西方向に分布している。
- 人口は上田上小学校・市民センター周辺の集落に分布している。
- 大戸川については、豪雨などの場合は外水氾濫に注意が必要である。
- 土石流危険渓流の影響範囲や急傾斜地崩壊危険箇所が点在し、豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にもこれらのエリアで崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性があるため警戒が必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	上田上小学校グラウンド	○		○		平野一丁目 18-5
	田上中学校グラウンド	○		○		新免一丁目 1-12
	上田上幼稚園グラウンド	○		○		平野一丁目 18-20
指定緊急避難場所兼指定避難所	上田上市民センター	○	○	○		牧一丁目 1-24
	上田上小学校体育館	○		○		平野一丁目 18-5
	田上中学校体育館	○		○		新免一丁目 1-12
	上田上幼稚園	○		○		平野一丁目 18-20
指定避難所	田上中学校武道場			—		新免一丁目 1-12

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
上田上市民センター	牧一丁目 1-24	549-0003

<警察 110>

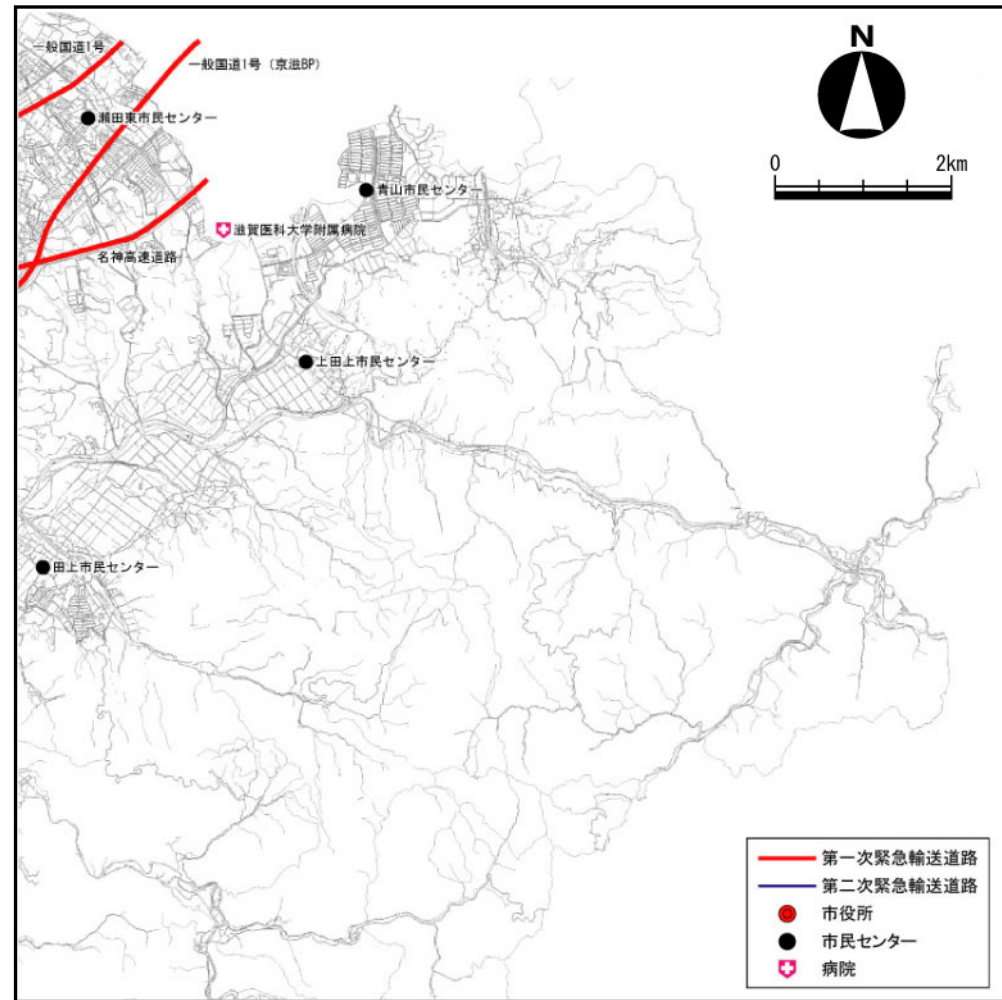
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
上田上駐在所	平野一丁目 18-1	549-0250

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
東消防署	大江四丁目 18-1	543-0119
青山救急出張所	青山五丁目 13-36	549-3799
上田上分団	牧一丁目 1-24	549-0131



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示 病院	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定 ケース	建物 棟数 (注1)	人口	建物被害			人的被害								
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	死者数			負傷者数			重症者数		
						早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,095	2,522	16	206	119	0	0	0	33	18	23	3	2	2
ケース2	3,095	2,522	25	230	140	0	0	0	39	26	27	3	2	2
ケース3	3,095	2,522	4	82	45	0	0	0	12	8	8	1	1	1

被害想定 ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	0	0	147
ケース2	0	0	0	169
ケース3	0	0	0	57

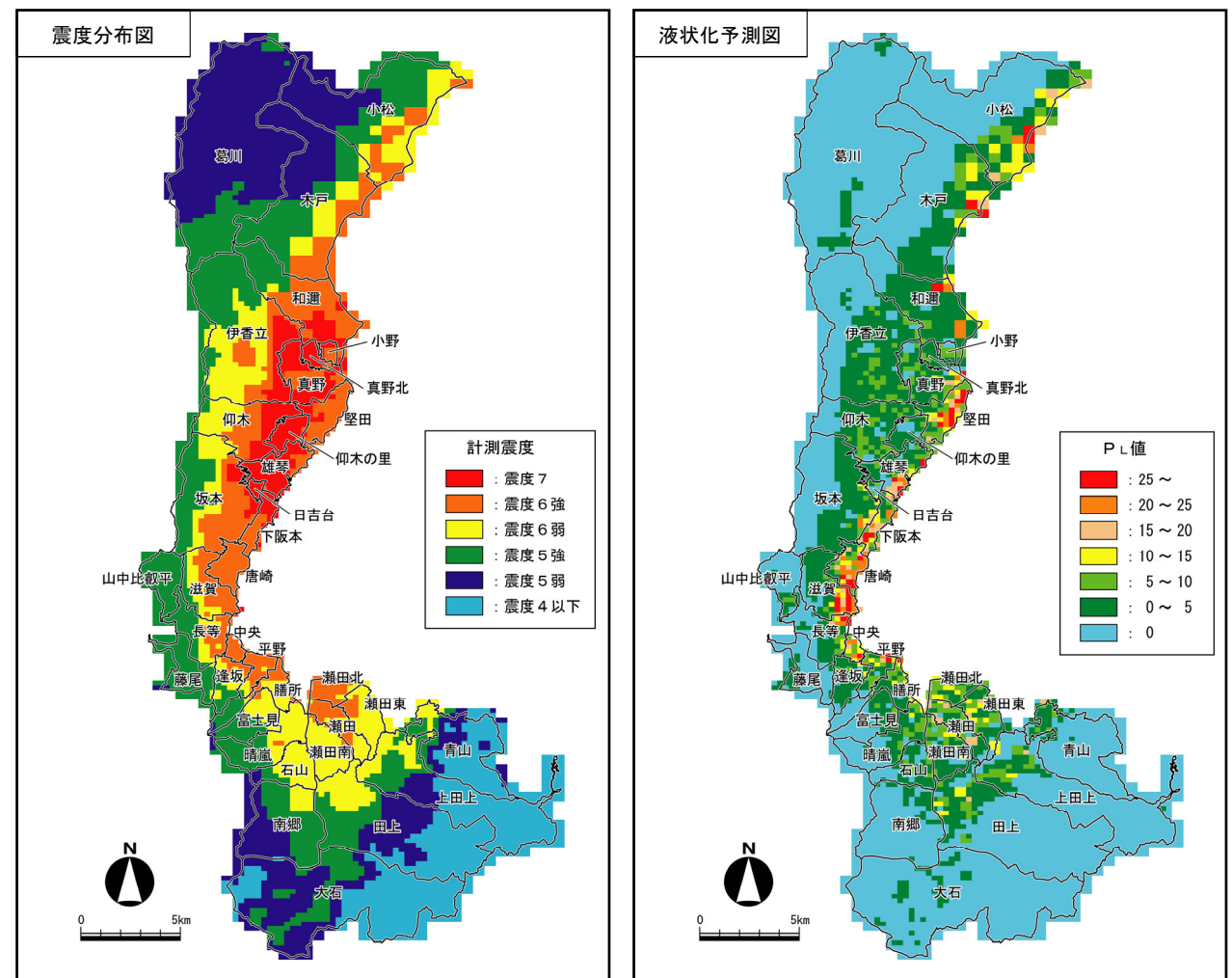
(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

(注1) 建物棟数のみ上田上学区と青山学区の合計である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3) (P_L≥10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
P_L≥20 激しい液状化)
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

